

中等科・高等科

企画課管理用 教 — A — 1

推進主体	中等科・高等科
責任者	中・高等科長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教 — A	協定校・国際プログラム参加校との連携強化	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

協定校・国際プログラム参加校との連携強化による学びの場と機会の拡充を目的とする。中等科の協定校の King's College (NZ)と高等科の協定校の St. Paul's School (MD, USA)は、生徒派遣と受入のみならず、教員交換なども行うことで両校の学びの場を拡充させてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大のもと、生徒も教員も派遣・受け入れが出来ない事態において新たな交流のかたちを模索し、実践を行う必要性が生まれた。

また従来の協定校との交流活動を振り返り、双方にとって持続可能な今後の交流のあり方を模索する。具体的には、協定の見直しや新規の協定締結である。協定は単に生徒派遣や受け入れ、教員交換にとどまらず、新規の交流を試行する。新たな協定対象の学校は、現在協定校の King's College や St. Paul's School に加えて、SGLI (Student Global Leadership Institute) という国際的な高校生リーダーシップ養成のプログラムを主催する Punahou School (HI, USA)をはじめ、SGLI参加校との間に緩やかな協定を結ぶ。はじめはOnlineによる交流から始め、短期の教員や生徒の訪問交流、将来的には長期の生徒派遣や受け入れを視野に入れ、生徒の学びの場と機会を増やす。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

- 協定校の国際交流担当者(あるいは代表者)会議の実施(年間5回目標)
- 協定校との国際交流における問題点の共有と解決策の模索と実践
- 協定校やSGLI主催校、参加校との新規の国際交流活動の模索と実践

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		担当者(あるいは代表者)会議(10回)					総括
		問題点の共有と解決策の模索と実践					
			新規の国際交流活動の模索と実践				

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびにSGLI主催校・参加校の国際交流担当者(あるいは代表者)オンライン会議の実施(年間5回目標) 	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびに国内のSGLI参加校の国際交流担当者とのオンライン会議を実施
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびにSGLI主催校・参加校の国際交流担当者(あるいは代表者)オンライン会議の実施(年間5回目標) 科長による米国協定校視察と交流史のふりかえり Punahou高校(教員1名)、ニュージーランドの高校との協定締結模索 SGLI in Japan(試験的)開催の模索のための国内参加校との交流 他校の国際交流事業に関するリサーチ 	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびにSGLI主催校・参加校の国際交流担当者(あるいは代表者)とメールやオンラインによる意見交換・協議の実施(令和5年5月、9月、11月) Punahou高校主催SGLIプログラムの発展的解消に基づき、次の展開についてSGLI日本参加校の担当者と協議(令和6年1月下旬予定)、ならびにPunahou校代表者の来訪による対面での協議(令和6年2月初旬予定) 科長による米国協定校視察は次年度に繰り延べ(令和6年9月下旬予定) ニュージーランドの中等科交流相手校キングスカレッジ中等部教員と懇談(令和5年7月上旬)、オーストラリアにおける初等科の交流相手校ザビエル校学長らの中高等科見学受入れ(令和5年6月下旬)と協議 姉妹校を一にする他校(立教新座高校)の国際交流事業リサーチ(令和5年8月)
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびにこれまでSGLIに参加した各学校の国際交流担当者(あるいは代表者)オンライン会議の実施(年間5回目標) 科長による米国協定校視察 Punahou高校との何かしらの形態での連携 ニュージーランドまたはオーストラリアの中学高校との交流に向けた体制を本格的に整備 他校の国際交流事業に関するリサーチを引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびにこれまでSGLIに参加した各学校の国際交流担当者(あるいは代表者)オンライン会議を1回実施した。 科長による米国協定校視察は諸般の都合で科長の予定を取ることができず、今年度実施を見送った。 Punahou高校生徒オーケストラが3月来日した際、院内各方面の助力を得てお迎えした。 米国協定校から、これまで実施していた1年間(10か月)の生徒交換プログラムを大幅に改訂し、本校からの受入れをクォーター期間(約2か月)とする申入れを受けた。7年度は数週間の延長が認められたが8年度から約2か月となることが決まった。これを受けて新たにニュージーランドまたはオーストラリアの中学高校との協定を結ぶ必要性を認識した。 いくつかの他校の国際交流事業に関するヒアリングを行った。
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> 協定校ならびにこれまでSGLIに参加した各学校の国際交流担当者(あるいは代表者)オンライン、ならびに対面による会議の実施。 科長による米国協定校視察の実施。新たな段階となる米国協定校との提携関係についての文書を交換する。 Punahou高校との今後の関係のあり方について検討。 新たにニュージーランドまたはオーストラリアの中学高校との新規の協定締結にむけての具体的な検討や準備作業を行う。 他校の国際交流事業に関するリサーチを引き続き行う。 	